



会 頭	副会頭	専 務	局 長	所 長	課 長	課長補佐	担 当

28 総収第43号
平成29年2月23日

大館商工会議所

会頭 中 田 直 文 様

大館市長 福 原 淳 嗣

(総務課広報広聴係担当)



要望書について (回答)

日頃から、大館商工会議所の皆さまには市政の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

提出のありました要望書につきまして、次のとおり回答いたしますので、よろしくご理解を賜りますようお願い申し上げます。

記

要望事項

(1) 市庁舎の建設について

新市庁舎は適正な規模で防災、避難基地としての機能及び市民のコミュニティ機能を有するものとし、隣接する桂城公園の整備に見合う情緒漂う外観が望ましい。また、桂城公園は歴史的保存公園という位置付けをし、市民の憩いを創出するとともに市庁舎と併せ、災害時に避難場所としても活用できるよう一体的に整備をしていただきたい。

- ① 木都大館にふさわしい木造構造体の新市庁舎とし、城址化機能を持つ桂城公園の美観及び日照を損なわない調和のとれたものとする事。
- ② 新市庁舎内には大館市の歴史に触れられる市民交流空間を設置するととも

に、桂城公園を含む市庁舎周辺敷地には週末や祝日などに多くの市民が活動・活躍できるようにするため多目的イベント・スペースを設置し、城址公園である桂城公園と有機的機能を持たせること。

回答 ① 新庁舎の構造体については、建築基準法の制約や事業費抑制の観点から非木造を想定しているところではありますが、内装等は秋田杉などの地場産材活用を考えています。今後引き続き、木都を意識していただける意匠を検討し、外観にも留意しながら桂城公園との調和を図ってまいります。

② 新庁舎では、1階フロアに休日・夜間開放型の市民交流スペースを設けることとし、展示スペースやキッズコーナー、ラウンジなどで市民の皆さんにくつろいでいただくよう検討しているところであり、市の歴史等もその空間を利活用しながらお伝えできるようにしてまいりたいと考えています。

また、多目的イベントスペースの設置等、桂城公園も含めた有機的機能の確保については、歴史的風致維持向上計画における桂城公園の整備計画と調整を図りながら一体的な整備を検討してまいります。

(2) 歴史文化について

「誇れるわが街 大館」を目指し、大館の歴史、文化、史跡、優れた先人、産業等をテーマごとに大人や子どもたちに伝えていき、愛着が持てる、心豊かになるための施設やそのための教育が必要である。そのためにも史跡の保存と管理、掘り起こしを行い、散逸している資料等を整理、保護し、テーマ別に資料館や先人顕彰館、美術館、伝承館等を整備して市民に広く伝えていくとともに、歴史・文化等を子どもたちに伝える故郷学習をさらに推進していただきたい。

① 桂城公園は歴史保存の城址公園として整備し、一体的に資料館や先人顕彰館、小規模な美術館等を計画すること。

② 歴史資料館には、歴史資料として戦後の大火、花岡事件など負の歴史も学べるような環境を整えること。

③ 商店街の空き店舗を利用し、神明社の祭典や大館アメッコ市など伝統のまつ

り等を紹介する伝承館を設置すること。

④ 大館の財産である秋田犬の本場にふさわしい街にするため、秋田犬の飼育奨励と飼育者に対する支援体制を整えること。

回答 ① 桂城公園内に資料館や先人顕彰館、美術館を計画するご要望については、桂城公園に近接している公共施設や民間施設の活用を基軸に、関係する方々と具体化方策を協議してまいります。

② 歴史資料館の内容は、大館郷土博物館の展示品や貯蔵品をはじめ、各所にある歴史的な資料をどのような形で発信できるか検討してまいります。

③ 伝承館の設置は、市所有建物の活用やご要望の商店街の空き店舗利用も含め、総合的な観点からその整備を検討してまいります。

以上、①～③の施設についてはいずれも関連が深く、歴史的風致を巡る重要な拠点となることから、需要と費用対効果を見極め、市民や観光で訪れる方々にとって、魅力ある施設へと繋がるよう工夫してまいります。

④ 秋田犬の本場として、まず成すべきことは秋田犬保存会との緊密な連携が重要と考えています。

どこでも秋田犬が見られるという環境が理想ではありますが、急激に頭数を増やすとしても繁殖については多くの課題があることから、保存会との間で具体的な支援策として何が必要であるのかを随時協議しているところであり、今年度は飼育者を増やすために「秋田犬の飼育教室」の開催、展示・販売が可能となる「動物取扱者の資格取得支援」などを進めています。

また、高齢者が生きがいを感じながら就業機会が得られるような「秋田犬とのふれあい観光案内人養成」の支援や、地域おこし協力隊による「秋田犬の飼育状況の動画発信」などを通じて新たに秋田犬を育てたいと思う環境づくりを進めているほか、秋田犬と直接ふれあえる場所としての観光拠点施設「(仮称)ハチ公の駅」の整備を進める予定であり、今後も全国に「秋田犬の本場大館」を発信してまいります。

(3) スポーツ・観光（交流人口拡大）について

交流人口を拡大させるためスポーツ施設の拡充を図るとともに、点在する各スポーツ施設間を容易にアクセスできるよう道路整備を行い、市民はもとより北東北全域、さらにはその他の地域からのスポーツ合宿として利用しやすい環境づくりを行っていただきたい。また、大館駅前を観光の拠点として大館駅前広場を再整備するとともに、JR大館駅舎を一体的に改築し、観光物産等の施設や飲食施設を併設し「誇れるわが街 大館」の顔を創出する。これらの実現のためにも高速道路と鉄道を連結した交通ネットワークの整備を併せてしていただきたい。

- ① 大館駅、高館テニスコート、樹海ドーム・体育館、長根山、長木川河川敷、そして中心市街地に容易にアクセスできる道路を整備し、スポーツと観光による交流人口の拡大を図ること。
- ② ナイター設備付きの専用球技場やトレーニングセンターを整備し、大学生や高校生の合宿や大会が誘致できる環境を整えること。
- ③ 長木川河川敷をランニングコース、サイクリングロード（冬季にはノルディックコース）として整備するとともに、岩神貯水池周辺をウォーキングに適したエリアとして整備する。また、小坂鉄道跡はレールバイクとしての利活用をさらに進め、遠方からの体験型観光に結び付けること。
- ④ 市がJRと連携して、JR敷地の未利用地等の整理・利活用をし、都市再生事業により大館駅前広場の整備並びにJR大館駅舎の改築を行う。駅舎内には観光の拠点施設や飲食施設を設置すること。

回答 ① スポーツによる人づくり、まちづくり、交流人口の拡大は市の重点施策であり、一層の注力をしていきたいと考えています。

市内の主要スポーツ施設については、県道・国道に隣接、もしくは市中心地に位置する利点をさらに生かせるよう、道路標示案内や誘導表示を工夫してまいります。

なお、日浴道の延伸などにより、全国・東北規模の大会開催や誘致に弾みがつくものと考えていますので、今後もさまざまなイベントを開催するとともに、合宿補助の周知、圏外との交流推進、観光分野との共同などに

より、交流人口の拡大を図ってまいります。

- ② ナイター設備の整った球技場としては、樹海ドーム、高館テニスコート、田代テニスコートがありますが、今後、需要を把握しながら「(仮称)花岡スポーツ総合公園」へのナイター設備導入などを検討し、合宿や大会誘致を推進してまいります。
- ③ 昨今の健康志向の高まりから、ランニングコースやサイクリングコースの整備は有効であると考えていますが、現在、長木川河川敷は、ラグビー場やオートキャンプ場、ゲートボール広場など、老若男女が集う場所として整備されています。現状の施設利用者とスピード感の違うランニングコース等の整備については、現在の利用状況を踏まえながら、今後の検討課題として捉えていきたいと考えています。

岩神貯水池周辺のウォーキングコース整備については、現在、現存する桜の維持管理や補植、遊歩道及び森林の整備等を計画的に進めるため、「岩神ふれあいの森整備計画」を平成 29 年度前半を目途に策定する予定であり、その中において取り組んでいきたいと考えています。

レールバイクの利活用の推進については、市の観光資源として雪沢温泉郷、長木溪谷を一体的な観光拠点とするため、レールバイクなどの体験型観光と長木溪谷の景観を基とした周遊型観光や温泉を活用した滞在型観光などを包括的かつ合理的に行うことなどを目的とした「国民保養温泉地計画」の申請を行っています。レールバイクと温泉という大館の地域資源を生かした取り組みを進め、体験型観光の充実に結びつけていきたいと考えています。

- ④ 駅前地区の整備については、秋田の北の玄関口、さらには北東北の玄関口として核となるエリアを目指し、「(仮称)ハチ公の駅」は観光拠点施設、JR大館駅舎は交流拠点施設としてすみ分けし、整備を進めたいと考えています。

こうしたことから、観光物産館など観光の拠点となる施設については「(仮称)ハチ公の駅」内に設置する予定とし、飲食施設等については官

による基盤整備を先行することにより、駅前地区での民間投資が誘発されるよう進めてまいりたいと考えています。

(4) 食の地域資源を生かした地域振興について

大館市の農産物は他市にはない素材が多くあります。農産物の地産地消の取り組みや所得向上を目指すための取り組みをお願いしたい。

- ① 大館市の特産物として、比内地鶏、ヤマノイモ、エダマメ、トンブリ、ドジョウなど他市にはないものがある。これらの農産物をブランド化する取り組みと、加工・販売事業の取り組みに対し支援すること。
- ② 大館市の特産物の消費拡大による農家所得向上のため、学校や福祉施設、病院、宿泊施設、食堂・レストランなどで地産地消への奨励対策を実施すること。
- ③ 観光振興の一つの要素として美味しい食事の提供があげられるが、大館市の食の観光資源であるキリタンポ鍋、比内地鶏、さくら豚、秋田牛、生ハム、ヤマノイモ、エダマメ、トンブリ、ドジョウ、大館ビールなど本場でしか味わえないものを宿泊者や来訪者に気軽に食べていただくため、行政や農業団体、観光団体、ホテル・飲食・旅館団体などとの連携した取り組みへ支援すること。

回答 ① 農産物のブランド化に向けては、「いかにたくさん収穫するか」ではなく、いかに「買いたいと思われるような作物を作るか」に視点を変えることが重要であり、量よりも質、他にはない付加価値をつける必要があると考えています。そのため、品質向上や販売戦略を踏まえた生産に向け、生産者が組織するJA生産部会等と連携しながらブランド化の取り組みを推進し、農家所得向上に努めてまいりたいと考えています。

特に、枝豆については、「えだまめのまち大館」の実現に向け、他産地との違いを打ち出すためのプレミアム化・ブランド化に向けた取り組みや、大館の新名物となる枝豆スイーツの開発・生産・販売拡大の取り組みを強力に推進したいと考えています。

また、各種農産物の6次産業化については、基本として「六次産業化法」に基づく総合化事業計画の認定を受けた事業者に対し、6次産業化に必要な

な機械設備等の導入と新商品の開発・販路拡大を支援したいと考えています。県でも6次産業化に向けた取り組みの支援窓口を設置していますので、まずは各事業者からの相談をお願いします。

- ② 農産物の消費拡大に向けては、農産物の安定生産・安定供給が前提条件となるため、関係機関と連携しながら作付誘導、作付面積の拡大、きめ細かな営農指導に努めてまいります。

また、地産地消については、フレッシュ野菜供給会と給食センターとの連携による地場農産物の使用率向上の取り組みを展開しているところです。今後も市内で生産される農産物の安全性を積極的にPRしながら、学校給食のみならず、福祉施設や宿泊施設等に対しても新鮮な野菜を安定供給できるような環境づくりに努め、地産地消をますます奨励してまいりたいと考えています。

- ③ 土地固有の「食」や「食文化」が旅行者を誘因する重要な観光資源であり、その保護や育成、創出やアピール活動は地域活性化に結びつく重要な取り組みであることを強く認識しています。

大館ブランドの向上とおもてなし意識の醸成を図り、気軽に食べていただくための具体的な支援策について、市民・行政・関係機関が連携し、かつ、意見交換をする必要と考えていますので、その中で速やかに検討してまいります。

(5) 多様性のある街について

北東北の中心的位置付けを利用し、秋田県内はもとより青森・岩手の各市町村との連携を経済・観光のみならず農業・行政まで取り込んで行き、北東北の拠点都市を目指す。また、大館で子どもを産み、育てやすい環境をつくりあげるとともに、子どもたちが一度地元を離れても当たり前のように将来戻ってこられるような街であり、高齢者にとっても暮らしやすい賑わいのある街づくりをお願いしたい。

- ① 大館市の東西南北の国道の拡幅（二車線化）によるスピードアップ化及び花

輪線のスピードアップ化を図ること。

- ② 自然災害の少ない安全で安心できる街をPRするとともに、北東北の地理的中心地であることから、物流拠点の設置や企業の進出を促すこと。
- ③ 高齢者と子育て世代、及び若者の交流の機会を作り出すような街づくりを行うこと。(例：街なか老人介護施設やサービス付き高齢者向け住宅の整備)
- ④ 就業と生きがい作り、移住促進対策として、高齢者や働いていない女性への就労支援を幅広い業種を対象に行うとともに、里帰り就労やシングルマザー就労の推進と併せて、空き家及び空き店舗の活用を行うこと。
- ⑤ 今後人口減少は避けられなく、労働力不足が地方の経済に深刻な影響をもたらすことが予測されることから、介護や農業分野での国内外の人材を育成するための国の研修施設を誘致すること。

回答 ① 国道の整備については、これまで矢立峠の視距改良、釈迦内地区の右折レーン、川口地区の市道路地付け道路改良などの工事实施により車の流れが改善され、昨年の日沿道大館鷹巣間の開通で交通量も緩和されてきています。

花輪線については、毎年利用者からの声を拾い上げ、JRに対し時刻調整などの要望をしているところです。

今後も、北東北の要衝としての本地域の姿を見据え、引き続き国やJRへさらなる交通対策について、積極的に要望してまいります。

- ② 東日本大震災以来、国では途中で途切れている高速道路網の解消を図るため、災害に強い道路ネットワークの強化に取り組まれているところであり、こうした面でも大規模な災害の少ない本市の果たす役割はより大きなものになることを認識しています。また、秋田自動車道の整備は、平成25年11月の大館北インターチェンジ供用開始に始まり、昨年10月には北秋田市脇神まで通行可能となり、来年度の大館能代空港までの開通が待たれます。一般道では、国道7号矢立峠における視距改良工事、昨年10月の葛原バイパスの完成などにより交通体系の高速化・安全性向上が進展しています。

ご提言のとおり、交通網の整備により、秋田市、青森市、盛岡市で描かれる三角形の中心に本市が位置することから、北東北の要衝としての本地域の姿が見えてまいります。さらに、その先の能代港、八戸港、青森港や北東北の五つの空港を見据える目を養うことも必要と考えます。

地の利を生かすためにも、外に向けて本市の情報発信に積極的に取り組むことにより、交流人口を増やし、モノとヒトの動きを促し、物流・企業の進出へと循環させてまいりたいと考えていますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- ③ 現在、大館版CCRC構想の中で、移住者及び街なか住み替え者をターゲットとした、多世代交流が可能なサービス付き高齢者向け住宅などを含めた居住環境の整備方法等を検討しているところです。

ご提案の老人介護施設については、次期介護事業計画に位置付けることが必須となり、また、サービス付き高齢者向け住宅については、事業主体の洗い出しが重要となってきますので、貴所を含めた大館版CCRC整備推進協議会の皆さまのご意見を伺いながら方向性を決めていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いします。

- ④ 貴所においては、高齢者活躍支援協定の締結、市高齢者活躍支援協議会の設立など、本市と一体となって高齢者が活躍する社会の構築に取り組んでいただき、深く感謝申し上げます。

本市としましても、ご指摘の移住される方、未就業女性や福祉面での支援が必要な方に対しても、就業機会の向上に繋げるべく秋田労働局や大館公共職業安定所のご指導をいただきながら、連携を密にし就労支援に取り組んでいるところです。

一方、高齢者を含め、社会的なハンディキャップを抱えながら生活する方々については、雇用者側のご理解とご協力をいただくことが非常に重要であると考えていますので、ご理解願います。

空き家、空き店舗の活用についても同様で、所有者のご理解を得ることで、さらなる活用が期待されます。

働き方や建物の使い方については、今後は多様性のある働き方、これまででない活用方法など、柔軟な思考を求められることが多くなると予想されます。

こうした課題については、商工業界、地域、そして市が手を携えて取り組む必要があると考えていますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。

- ⑤ 労働力不足については、ご指摘のとおり市でも懸念しているところであり、介護分野においては介護コースを持つ4年制大学の誘致に努めたほか、現在は市内にある県指定介護事業所での資格取得に対する助成を実施中であり、また、農業分野においては市内認定農業者等での技術研修に対する青年就農給付金制度などにより人材確保に努めています。

ご指摘の両分野のみならず、今後ますます医療などさまざまな分野での人材不足が予測されていますので、ご提案については、国や県の施策を注視しながら大学等との連携を図るなどし、誘致を研究・検討してまいりたいと考えています。